

国字問題研究会

ニューヌ

1991年夏季号 1991年7月1日発行 題字 見城慶和

発行=国字問題研究会

年間4回発行
8ページ 200円

およびFax 0425-32-1830

郵便番号 東京2-166984

通常号 頒価100円(会員の購読料は会費に含む) 年費 2000円

今年の夏季・国字研アカデミーは、第七回を迎える。八月九日(金)である。

今までの一回一回の大会で、教育漢字の多過ぎによる国語教育、学校教育の破壊が参加した教師・父母によって訴えられてきた。国字研が目指してきた「漢字地獄から子どもを救おう」という運動の正しさは、こうして、一回ごとの大会で実証されている。

この間、国字研の事務局も当初はがたがたしていたが、現在は同志的なつながりで運営できるようになってきた。それは、国字研の目指すものの重要さを大会参加者や仲間から教えられることと、自分の日常実践で実感していることによるのだ。

僕は、現在、三省堂出版の大久保忠利著作選集の編集にたずさわっている。氏の国語教育論文の全体を何度か読んだ。

はげなみ

真の国語教育を目指すというなら

氏の教育観は「全面発達を目指す教育」であり、その中の国語科の分担は、「言語能力」を教育する「責任教科」という位置づけである。

この「言語能力」の中に「漢字教育」が入るわけである。

こうした観点から、国字研は「漢字教育」から「教育基本語い」の選定作業に入った。約二年たつ

「真の国語教育を目指す」というなら、

現在の教育漢字過多教育基本語いの選定にも、もっと力を入

田村利樹

れるべきだ。それは、「教育漢字過多」「教育基本語い」の選定が遅れていることが、現在の国語教育を破壊しているからである。

今年の大会は『漢字の未来』の著者・野村雅昭氏(前・国立国語研究所、現・早稲田大学)を迎えての講演がある。

(たむら・としじゅ)

夜間中学における

「生活基本漢字」の北拍道守

目見城 吉慶和

《夜間中学の特殊な条件》

なんらかの事情で中学校教育がうけられなかった人たちのための「夜間中学校」が、現在、全国に35校（一校は本年四月に奈良に開校）、東京には8校あります。

ここに学ぶ生徒たちは、国籍も多様で、年齢も15〜70歳台までと幅があり、多くの人々が社会人として仕事についています。

こうした特殊な条件をかかえた夜間中学校での漢字教育は、学年記号漢字に準拠した教科書でおしえている一般の

たとえば、働いている人は

給料の明細書が読めなければならぬし、職を求める人ならば履歴書が書けなければなりません。また家庭の主婦ならば、町会の回覧板や、学校や幼稚園などからのお知らせが読めなくては困ります。郵便局や銀行などでも一人で用が足せなければ不自由です。

こうした生徒たちの切実な学習要求にこたえるために、生活の中でつかわれている漢字を、つかわれている言葉で学べるようにしようという考え方で、一九七六年に「生活基本漢字」の選定と、テキストづくりをしました。

《生活基本漢字の選定》
選定にあたっては、あらかじめ次の十四項目を定めまし

- | |
|------------|
| 基礎・履歴書・衣食住 |
| 身体・病院・公共施設 |
| 標識・交通・自然 |
| 地理・職業・学校生活 |
| 社会生活・個人生活 |

この各項目ごとに、都内夜間中学校の国語班のメンバーが「実地調査カード」を作成して検討した結果、三一四字のコトナリ文字を選び出すことができました。それに、都道府県名に用いる漢字を加えて、全部で二八〇字の生活基本漢字を選定しました。

《生活基本漢字表》
1 まずこれだけはおぼえよう。

(基礎) 一一三三四五六七八
九一十百千万時分円日月火水木
金土空故人人大中小前後左右上
下多少熱冷半広赤青黒白黄明

治正昭和(五一字)

2履歴書を書こう。

(履歴書) 氏名男女生年歳

親父母夫妻兄弟姉妹子住所本

籍印履歴(二四字)

3ひっこしのあと。

(衣食住) 衣食寝起部屋階

家紙飲米油魚肉買酒高安売服

着糸電気(二四字)

4うちのおばあさん。

(身体) 体目耳齒手足指骨

口胸頭腹鼻息顔首血胃身病院

(二一字)

5おばあさんのびょうき。

(病院) 救急入受付内科外

児診察室医者薬(一五字)

6びくときみがくらすまじ。

(公共施設) 公共役保健福

祉職業定園銀行郵便警察番号

施設(二三字)

7ちゅういしてよくみよう。

(標識) 看板標識注意非常

危険禁煙自動押引出洗便所

(二〇字)

8電車にゆられて。(交通)

交通乗車運転地鉄道路路駅普

期特(一四字)

9わたしの四季。(自然)

春花川雨夏夜田草木空海昼

山秋風石冬朝(一八字)

10地図をひらいて。(地理)

地図北南道東西都県府区市

村町・都道府県名のコトナリ

漢字五五字(六九字)

11いろいろな職業(職業)

仕事会社営商店届働事務工

場作募集労休給料税失(保)

12楽しい勉強。(学校生活)

学校教勉強通間始終徒先国

語数理英音楽美術育技卒式

(二四字)

13外にむかって目をひらこう。

(社会生活)

世界新聞放送無責任害政良

悪貧弱不自由法律憲平民主義

権利選戦争(三〇字)

14ひとりひとりの人生。

(個人生活) 物知思友信感考

愛願書様他見言心性命持

(一八字)

(注) 以上はコトナリ文字

をダブらないように掲げたの

で、例えば、住所・職業安定

所・始業：など何度もでて

くる漢字は、ここでは初出の

項目だけに出しました。

《自主教材テキストの活用》

次に、この生活基本漢字を

用いて夜間中学生のための漢

字学習読み物テキスト・『国

語・二』を作成しました。こ

こではどの文章も2分台で読

めるような長さになりました。

しかし、夜間中学ではじめ

て漢字の読み書きを習うよう

な生徒は、これを読むのにも

5分も6分もかかります。そ

こで、ストップウォッチでは

かりながら、ハッキリと声を

出して正しく読ませ、2分台

でできたら次へ進むことにし

て「読み・書き」とともに、条

件反射的にできるようになる

ことを要求しました。どの生

徒にも「生活基本漢字学習進

度表」を持たせることで、つ

ねにその時々々の到達度と、学

習目標がわかり、それが学習

の大きな励みとなっています。

漢字は五万とあっても、し

よせんはサバクの砂、ダイヤ

モンドのような「生活基本漢

字」をしっかりと身につければ

、必要な漢字は、磁石が砂鉄を

すいつけるように、必要に応

じて、漢字の方からどんどん

身につけてきます。♪♪

死語・廃語と廃漢字の整理

大久保忠利

この文章は大久保先生が生前日本コトバの会「あゆみ」四五号（一九八九・六）に書かれたものです。

1、「常用漢字表」は廃漢字過多

「常用漢字表」が「当用漢字表」より九五字も増やされて一九四五字にされたのは、委員がそれまでの推薦制でなく、一九六八年（昭四三年）に文部省・文化庁のかつてな任命制にされ、その結果、漢字保守派の委員がどつと入ってきたからです。増やされた九五字の漢字のなかには、いったんはけずると決められたたぐさんの漢字がまたもや入ってきています。

一九七七年（昭五二年）一月の第一二期国語審議会の末

2、「当用漢字表」で変化した語と表記

気をつけてみると、新聞の用語は以前の「当用漢字表」が実施されて以後、たくさん変化しています。次のような方法で。

- 1 発音はそのまま漢字を変えたり
- 2 音のちがう同意義漢字に変えたり
- 3 まぜ書きにしたり
- 4 かな表記にしたりして

とくにわれわれが気が付いている変化の実例を見ます。

- 1 同音同意の漢字で変えたもの
- 1 輿論 → 世論
- 2 叡知 → 英智
- 3 暗翳 → 暗影
- 4 障碍 → 障害

- 2 別の音の語になったもの
- 1 洗職(トワシ) → 汚職
- 2 沽券(コウケン) → 体面

ほかのは略します。

今では、ほかの語を思いだすのはほねなほです。これが、言語の変化であり、人々はそのとき使われている漢字だけで不自由はしません。

ところが、漢字保守派の人たちは、人名漢字の増加を強力に政府に迫り、たくさん増やさせました。

零(みかど) 昂(すばる) 昂(すばる) など、名刺に刷っても人に読めそうもない字まで入れました。なんでも多ければいいと思っているのです。

これは、漢字保守派の人たちは政治的に強力で、政府に顔がきき、そういう人たちが政府にやらせたことです。

- 木内允胤、宇野精一、福田恒存など
- 3、変化したコトバ・朝日新聞の「あ」だけを見れば

新聞の用語用字は、むずか

しかつたり固かつたりすると、読者から文句がきます。すると、販売から編集へ文句がくるのです。そこで、編集では、なるべくわかりやすくし、現代的なコトバ・文字を使うように記者たちにいいます。朝日新聞社から出ている『朝日新聞の用語の手引き』(700円。大きな本屋にあり)で、「あ」だけを見ても(主なものが)、こんなにくさんありました。予想をはるかに越えていました。

悪どい↓あくどい、愛玩↓愛用、匕首↓短刀・あいくち、挨拶↓あいさつ、生憎↓あいにく、逢引↓あいびき、愛撫↓かわいがる、曖昧↓あいまい、隘路↓難関・障害・困難・支障、灰汁↓あく、悪罵↓ののしる、悪辣↓悪質・あくどい・ひどい、浅墓↓浅はか

、脚許↓足元、唾然↓あつけにとられる、厚顔しい↓厚かましい、斡旋↓あっせん・世話・取りもち・周旋、軋轢↓摩擦・不和・いざござ、後釜↓後がま・後任・跡目、孔↓穴、阿呆↓あほう・ばか、数多・許多↓あまた、予め↓あらかじめ、有り難う↓ありがとう、暗弱↓暗影、暗渠↓暗きよ、行燈↓あんどん、鞍馬↓あん馬、闇夜↓暗夜・やみ夜、

「あ」だけでもこの調子ですから、「わ」までずっと見たら、どのくらいあるか予想もつきません。このようにして、死語・廃語・廃漢字はほとんど使われなくなっています。

「黄砂」について——今年(一九八九)三月中旬、新聞に「黄砂」という字がでて、思わずニコリとしました。中

国での現象で、これが日本にも飛んで来たというのです。わたしの若い頃は「黄塵」(コウジン・ちり)一万丈(バンジョウ)——(丈は尺の一〇倍の高さ)というコトバでした。わたしも、中国で(出征したとき)これに包まれ、五メートル先も見えなくなり、目や口に入って苦しんだことがあります。この語も、「当用漢字」の制限で「塵」がなくなり、代わりにできた語です。国語辞書には両方はいっていました。

4、多すぎる教育漢字を減少せよ

わたしたち(国字研の仲間)は、新指導要領では、小学校の教育漢字がかったの八八一字から九九六字、そして一〇〇六字にされていますが、教室(教師と児童・生徒そして親たち)の苦勞を思い、次

のようにせよとかねてから主張しています。そして、近ごろわれわれの主張の正しさが多くの人の耳に届き、賛同者が増えていきます。

「教育漢字の小・中・高配当」

小—八〇〇字。使いこなし六〇〇字・読めるだけ二〇〇字

中—計一三〇〇字

高—計一五〇〇字

あとの四四五字は大学その他。しかも、「常用漢字表」そのものの中の廃漢字を大きく整理せよと。

国字研ではすでに年月をかけて一字一字を検討し、具体的な第二次試案を示しています。

どうか皆さんも一字一字を検討して、同感なら、それぞれの地方教組や教委などに強く訴え、同感の運動を起さしてくださいます。

日本語の文字と
表記をめぐる諸
問題の参考資料

▼雑誌論文・記事▲

- ★幼児語の世界(大久保愛)
『日本語』(特集・「ぼんぼん」が「お腹」に変わるときー幼児語と言語獲得)
一九九一年三月号、アルク
- ★差別としての文字(田中克彦)
『日本語学』(特集・識字と文字習得)
一九九一年三月号、明治書院
- ★漢字の字源を知るために(阿辻哲次)
『しにか』(特集・東アジア学への招待)
一九九一年四月号、大修館書店
- ★漢字不足にどう対処するか

情報用漢字私論(古川末高)
『しにか』一九九一年四月号

★戸籍における漢字の扱い(笠原政司)
『しにか』一九九一年四月号

★「部首制度」のPRを(春松進一)
『しにか』一九九一年四月号

★連載・リレーエッセイ 電子時代の漢字論 『しにか』
①文化的変容を担うワープロ(紀田順一郎)
一九九一年四月号

②読む漢字・書く漢字・打つ漢字(由里幸子)
一九九一年五月号

③入学試験と人名の表記(村田忠禧)
一九九一年六月号

▼新聞記事▲

★「世界最小50万分の1ミリの文字／原子一個ずつはぎ取り

アトミック素子開発へ／日立
『東京新聞』1月15日

★第18期国語審議会「外来語の表記」答申に関連の記事
○「外来語表記／原音も慣用も尊重／国語審が初答申」
『朝日新聞』2月8日

○「国語審答申／「ヴァ」や「トゥ」表記認める／外来語／現状追認、33音を追加／新聞は従来通り」
「どっちでも」ファジー表記／外来語「緩和」／「遅ればせ」今さら…／混乱招くと批判も」
『毎日新聞』2月8日

○「外来語の表記／慣用を尊重／国語審が答申／「シェ」「ヴェ」など33音追加／「インタヴェュー」「インタビュ」両用も緩やかに／教科書は来年から」
『国語審答申／カタカナ盛衰世に連れ：／落選のヂ、キ、ヲ、固有名詞はOK／ヴェ、ヴァの表記教科書が先取り」
「まだ残る日本語の問題点」

ワープロなどの漢字乱用も心配」(地方部・池田睦美)
『読売新聞』2月8日

○「外来語表記に緩やかな目安／国語審答申／原音・慣用双方に配慮／「一語多表記」に不満も」
『日本経済新聞』2月8日

○「「ヴァイオリン」など認める／原音に近い表記答申／外来語で国語審」
「ちよっぴり戸惑いも／国語審答申／外来語の「自由化」で」
『東京新聞』2月8日

○「国語審「サービス」／外来語表記が緩やかに」
『産経新聞』2月8日

○「答申本文」
『朝日新聞』2月8日

○「外来語表記500例」
『毎日新聞』2月8日

○「答申本文」
『読売新聞』2月8日

○「答申前文・本文と付録の用例集(500例)」
『東京新聞』2月8日

○「外来語／外国の地名、人名／表記のよりどころ／国語

審議会が答申／所要の手続を経て実施へ」『答由全文・本文』 『文部広報』 八九〇号 2月9日

○社説「『バ』も『ヴァ』も正解なのだ」 『朝日新聞』 2月13日

○社説「自由化された外来語の表記」 『毎日新聞』 2月8日

○社説「『緩和』の姿勢貫いた国語審」 『読売新聞』 2月8日

○社説「国語を正しく美しく一週のはじめに考える」 『東京新聞』 2月10日

○「ハこの道」②国語審議会（坂本朝一・NHK元会長・第十八期国語審議会会長） 『東京新聞』 2月19日夕刊

★文部省「学校教育における外来語及び音訓の取扱いについて」の協力者会議最終報告に関連の記事
○「『塾』は中学校から／常用漢字で追加の95字／教える基準決まる」

『毎日新聞』 2月28日

○「『ヴァ』『ドゥ』は中学で／外来語表記／来春から実施／協力者会議文部省報告」 『朝日新聞』 2月28日

○「外来語表記／小・中・高別に指針／文部省調査会議が最終報告／『ウ』は中学校以上」 『日本経済新聞』 2月28日

○「最終報告書まとまる／外来語表記／平成4年から実施へ」 『東京新聞』 2月28日

○「漢字の『音訓』配分決まる／『凸凹』中学、『棧敷』は高校で」 『読売新聞』 2月28日

○「追加の常用漢字音訓読み／大半は中学校段階で／文部省指導指針まとまる」 「表・常用漢字の音訓読みの指導時期」

「表・新学習指導要領で加えられた小学校で指導する漢字の音訓読みの指導時期」 『産経新聞』 2月28日

★文部省「指導要録について

の協力者会議報告書に関連の記事

○「小学1、2年は評定廃止／新指導要録／中学今春、小学は来春実施／3、6年は3段階／中学の選択教科、絶対評価に転換」 『東京新聞』 3月14日

○「『偏差値のひずみ』正せるか／学校と塾の二重構造／さらに進める危険も」 「年表・文部省が示した小・中学校指導要録の教科評定方法の変遷」

「現実の入試にどう対応：進む内申書との『二重帳簿』化／『偏差値教育崩せる』期待の声も／容易でない到達目標の作成／本人への開示は先送り」

「個性伸ばせるなら／ほんとかいね／教師活性化図らねば／私立入試変わらぬ」 「小学校及び中学校の指導要録の改善について／審議のまとめへ要旨」

『毎日新聞』 3月14日

（乗木 養一）

国字研のブックレット

国字問題研究会・編
漢字教育の基本提案

漢字過多と子どもの実態
効率的な漢字の指導法
国字研の漢字精選の試案

1990年8月5日発行
頒価 1000円

★事務局だより★

例会報告

四月例会では国字研の教育漢字精選案の漢字を具体的にどう実践するかについて話しあいました。

まず、問題点として次の四つがあると、紺屋氏（東京都小学校教員）が指摘されました。一番目は現在ほとんどの小学校でつかわれている市販テストに、その単元で学習した新出漢字が問題の一部としてのついていることです。そのテストの結果を評価に使っているのです。二番目は次の学年に進級したときクラスがえをするので、ある漢字を習った子と習っていない子がまざっ

てしまうことです。そのため同学年の教師や全校の教師の了解や協力が必要になります。その人たちを説得するだけの力が理論面でも実践面でも必要とされます。三番目は親は教科書に出た漢字はすべて書けるように指導してもらおうことを教師に要望しているということですが、四番目は私立中学を受験する児童が増えており、入試問題に教育漢字はすべて出題される可能性があることです。

このような困難点を克服する方法として次のような考えがだされました。精選漢字を授業中に一字一字しっかり指導すれば、児童は漢字学習に抵抗感をもたず、漢字習得の力を身につける。その他の漢字は一字一字教えなくても児童には自分で学習する力がつ

いている。授業では精選漢字を重点的に指導し、その他の漢字は触れる程度に扱う。ただ、国字研の精選漢字は低学年・中学年にかたよっているため、それをどうするのが今後の課題です。

国字研例会のご案内

七月二十八日（日）十時～
アカデミー打ち合わせ
八月八日（木） 十時～
アカデミー準備
九月二十九日（日）十時～
いずれも神楽坂エミールで
（地下鉄東西線神楽坂下車）
TEL3260 3251

国字研夏季アカデミーにご参加を

加を

*日時 八月九日（金）

九時半～四時半

*場所 神楽坂エミール

*内容

①講演 野村雅昭氏

元国立国語研究所言

語教育研究部長

現早稲田大学教授

著書「漢字の未来」

②分科会・小学校低学年

・小学校中学年

・小学校高学年

・中学校・高校